日本語とシンハラ語の「依頼」に関する対照研究
—日本語学習者による可能要求依頼表現を中心に—

デヒピティヤ　スランジ　ディルーシャ（筑波大学大学院生）

要　旨

本研究は、シンハラ人母語話者 27 名、シンハラ人日本語学習者 44 名から得られたロールプレイ調査の結果をもとに、依頼の言語行動の特性について分析したものである。分析の結果日本語学習者は、シンハラ語の依頼表現としてよく使用されている「～Puluwan（できる）」という可能の意味を表す表現が、そのまま日本語でも発話されている傾向が見られた。そして、シンハラ語には見られない言いさし表現などの不使用により、相手に押しつけがましい印象を与える危険性があることや、相手により表現の使い分けも難しい傾向があることが分かった。表現形式のみならず、感動詞や名詞などの語彙選択にも異なりがあった。本観察から、日本語とシンハラ語の依頼表現の違い、使い分けについての指導が必要不可欠であるということが示唆された。

キーワード：依頼表現、可能要求系依頼表現、ロールプレイ

1. はじめに

シンハラ語を母語とする日本語学習者（以下、学習者）は日本語を用いて依頼を行う際、流暢であるにもかかわらず不適切、場合によって相手に不快な印象を与える表現を使うことがある。つまり、文法を習得していても実際に使用した表現形式が不適切な場合である。このような現象は日本語上級者であっても観察される。これは、日本語で円滑なコミュニケーションを行うのに必要な、相手や場面に応じた表現形式の選択を習得できていないことによるのではないかと考えられる。本研究では、「シンハラ人日本語学習者が産出する依頼表現に関する誤用は母語干渉による」という前提に立ち、対照言語学的な観点から依頼場面におけるシンハラ語母語話者の表現選択と談話構造またはシンハラ人日本語学習者の表現選択と談話構造を考察することを目的とした。よって、「ⅰ．シンハラ語の依頼表現の種類と分類を示し、日本語の依頼表現との類似点および相違点を明らかにすること」、「ⅱ．シンハラ語の依頼の談話構造の特徴および日本語との類似点・相違点を明らかにすること」、「ⅲ．学習者が産出する依頼会話における表現や談話構造の特徴を明らかにすること」という 3 つの課題について考察した。本論文では課題ⅰと課題ⅱを中心に依頼表現について論じる。

2. 依頼表現の定義

本研究では、蒲谷他（1998）を援用し「依頼表現」は、「自分の利益になることを相手が行動し、決定権を相手が持つ表現である」とする。ただし、所与の状況を考慮に入れながら依頼の意図を表明する表現である場合はそれを依頼表現として扱う。そのうち、可能要求依頼表現とは、動詞の可能形が用いられ、動詞を可能形にすることによって受益者の意志性を写像する依頼表現形式であると定義する。

3. 可能要求依頼表現に関する先行研究

Premawardhena（2007）は、シンハラ語では緩和ストラテジー（mitigation strategies）である *anee*（お願い）、*kohomahari*（何とか）、*puluwan-da*（できますか）が用いられて間接的に依頼することが多いと述べている。つまり、可能形である *puluwan-da*（できますか）は依頼表現に用いられる緩和ストラテジー（mitigation strategies）として取り上げられている。

英語に関する先行研究としては、Blum-Kulka 他（1989）は、英語では間接的な依頼文ではない、依頼を表す定型表現として定着している文型の使用が多いと指摘している。なかでも、Could you do. ...?（できますか）、Would you mind doing....?（するのはお嫌いですか）、Would you do...?（してくださいますか）の形が非常に多かったと述べている。

西光（1993）によると、Can you という表現が依頼を慣用的に表すようになると、圧縮されて（1）のような形が可能になる。

（1）Can you play the piano at our wedding?

しかし、（1）の圧縮した形で依頼を表すことは、日本語ではできない。

（2）君、僕たちの結婚式でピアノひける？

そして、Can you....?と Could you....?は、基本的に義務のない依頼の場合に用いられるのは、できるかどうかを確かめることが、やる気があるかとか、話者が希望を述べるよりずっと手前に確かめる事柄なので、Brown & Levinson の Don't presume の程度の高い要件だからであるとされている。

黒滝（2000）は、"Will you～?"< "Can you～?"< "would you～?"< "Could you～?"の順に丁寧度は高くなり、negative politeness の現象である間接発話が好まれる傾向にあると指摘している。そして、英語母語話者が実際に使用するもっとも改まった表現は、聞き手の権限内である私的領域には立ち入らず決定権を託す"Could I～?"であると述べている。

稲木（2004）は、<省略>状況に応じて"Can you open the window for me?" や"Will you open the window for me?" のように相手の能力や意思を疑問文を用いて質問することによって、間接的に依頼の発話内行為を行う場合が多々あると指摘している。

また、日本語学習者に関しては、『日本語誤用辞典』（2010）では、依頼表現として「～ことができます」を用いるのは日本語学習者の誤用であると述べている。

（3）

誤　聞きたいことがあるんですが、教えることができますか。（メキシコ）

正　聞きたいことがあるんですが、教えてもらえませんか／いただけませんか

（浅山他 2010:124）

上述したように可能要求系依頼表現を含めた依頼表現についての研究は数多くされているが、日本語とシンハラ語の依頼表現についての対照研究はいまだにされていない。また、依頼表現を網羅的にみていく必要がある。それをもとに、日本語学習者の依頼表現選択の特徴を明らかにすることも必要不可欠である。

4. シンハラ語の可能系「puluwan」について

シンハラ語の依頼表現では助動詞である「～puluwan（できます）」の使用（本動詞／補助動詞／名詞＋puluwan）が多用である。「～puluwan」については以下のように特徴をみることができる。

「**puluwan**（できる）」

可能形	依頼表現
現在形の動詞の変化形－〔nna〕＋puluwan da	現在形の動詞の変化形－〔nna〕＋puluwan da
意味論レベル意味 - 可能・能力	語用論レベルの意味 - 依頼

(4) 可能文 [1]

mee	badu tika	ikmanata	aragena	e-	nna	puluwan	da
この	物	早く	持って	来る	- INF	できる	Q

（この物を早く持ってくることができますか - 直訳）。

（筆者による作例）

(5) 依頼文

Mage	gamanbadu	aragena	e-	nna	puluwan	da
私	荷物	取って	くる	- INF	できる	Q

私の荷物を取ってきてくれませんか

（野口 1985:30）

5. 調査概要

本研究はアンケート調査、ニーズ調査 [2] およびロールプレイ調査からなる。シンハラ語の依頼を分類する際に、分類の客観性を保証できるよう、シンハラ人日本語教師を対象にアンケート調査を実施した。そして、会話データを集めるために日本語およびシンハラ語による「ロールプレイ調査」を行った。「ロールプレイ調査」は「本を借りる」、「悩みごとについての相談」という２つの依頼場面において、教師および友人に対して依頼をする会話である。研究課題、採集したデータおよび分析については以下の表１に示す。

表１　研究課題、使用データおよび分析方法

研究課題	使用データ	分析方法
課題 i	アンケート調査－シンハラ人日本語教師（30 名） ロールプレイデーターシンハラ語母語話者[3]（27 名、計 72 会話）	山岡（2008）参考[4] 山岡（2008）を一部修正
課題 ii	ロールプレイデーターシンハラ語母語話者（27 名、計 72 会話）	李（2006）[5]
課題 iii	ロールプレイデーター学習者[6]（44 名×4 場面＝計 176 会話）	山岡（2008）を一部修正、李（2006）

6. 依頼表現の分類

シンハラ語母語話者の「依頼」の言語行動に関して語用論的な観点から見た分類は先行研究では見当たらない。よって、本稿では、日本語の依頼表現の分類を行っている山岡（2008）を参考に（資料表 7）シンハラ語の依頼表現を分類した。その分類は〈依頼〉という発話機能[7]を発現するための語用論的条件からみた依頼表現の類型である。シンハラ語の依頼表現を分類する際には「アンケート調査」結果を参考にした。依頼表全般における可能要求依頼表現は以下の表 2 に示す。

表２　〈可能要求〉依頼表現の分類

依頼表現の形式	文法的名称	シンハラ語の依頼表現形式
Ｖてもらえるか	授受受動化	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　puluwan（できます）　da（か）
Ｖてもらえますか	敬語 （敬体）	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　puluwan（できます）　da（か）
Ｖていただけますか	敬語 （謙譲語）	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　puluwan（できます）　da（か）
おＶ願えますか	願望化	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　puluwan（できます）　da（か）
Ｖてもらえませんか	婉曲化 （否定）	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　beri（できません）　da（か）
Ｖてもらえますでしょうか	婉曲化 （推量）	V　a（PP）　ga（あげる）nna（INF）　puluwan（できます）　vei（でしょう）　da（か）

PP-Present perfect（連用形）

INF-Infinitive（現在形の動詞の変化形）

(6) 学生→教師

学生：mis, ma ta me padama aha ga -nna puluwan da
先生 私 に この 授業 教える もらう - INF できる Q
(先生、私にこの授業（の内容）を教えてもらうことができますか - 直訳)
先生、この授業の内容を教えてもらえますか。

(ケラニヤ大学にて 2011 年 3 月 12 日収録)

そして、可能要求依頼表現以外に意思要求依頼表現にも可能形が用いられる。以下意思要求依頼表現の分類である（表 3）。

表 3 〈意志要求〉依頼表現の分類

依頼表現の形式	文法的名称	シンハラ語の依頼表現形式
Vてくれるか	〈要求〉文 授受動詞	V a (PP) de (あげる) nawa (IND) da (か) V a (PP) de (あげる) nna (INF) puluwan (できます) da (か)
Vてくれますか	〈要求〉文 敬体	V a (PP) de (あげる) nawa (IND) da (か) V a (PP) de (あげる) nna (INF) puluwan (できます) da (か)
Vてくださいますか おVくださいますか	〈要求〉文 敬語	V a (PP) de (あげる) nna (INF) puluwan (できます) da (か)
Vてくれませんか	〈要求〉文 婉曲	V a (PP) de (あげる) nna (INF) beri (できません) da (か)
Vてくれますでしょうか	〈要求〉文 (推量)	V a (PP) de (あげる) nna (IND) puluwan (できます) vei (でしょう) da (か)

IND-Indirect（現在形）

(7) 友人同士

A：B、ane mata me padama kiyal -a de- nna puluwan da
B、感嘆詞 私 この 授業 教える - PP あげる - IMP できる Q
B、私にこの授業（の内容）を教えてあげることができますか（直訳）
B、私にこの授業の内容を教えてくれますか。

(ケラニヤ大学にて 2011 年 3 月 13 日収録)

7.「puluwan（できる）」の使用

シンハラ語の依頼表現形式としては、授受を表す助動詞及び、本動詞と「puluwan da（できますか）」の助動詞の使用が多かったが、形式的には以下のようにまとめられる。

【形式】

○〈可能要求〉依頼表現

・V　a（PP）＋ga（もらう）nna（INF）＋「puluwan（できる）」＋da（か）

＝「～てもらうことができますか」

日本語　⇒　「～てくれることができますか」

○〈意志要求〉依頼表現

・V　a（PP）＋da（あげる／くれる）nna（INF）＋「puluwan（できる）」＋da（か）

＝「～てくれることができますか」

日本語　⇒　「～てもらえますか／～ていただけませんか」

○「授受なし」

・V nna（INF）　＋　「puluwan　（できる）」＋da（か）

＝「ことができますか」

・「puluwan　（できる）」＋da（か）

＝「できますか」

このように、日本語とは違い、〈意志要求〉依頼表現も含めて様々な形式で可能の意を表す「puluwan　（できる）」が依頼表現として使用されている。以下の表4はシンハラ語母語話者を対照に行ったロールプレイ調査結果である。

表4　「puluwan（できます）」の使用頻度（実数）と割合（%）

表現形式	教員		友人		合計（%）
	本（27件）	悩み（16件）	本（13件）	悩み（16件）	72件
〈意志要求〉系	2	0	2	4	8
〈可能要求〉系	16	9	3	3	31
合計（%）	18（66．7%）	9（56．3%）	5（38．7%）	7（43.8%）	39（54．7%）

表4をまとめると、教員に対してはどのような場面でも高い出現率を示している。本を借りる場面では27件中18件、66．7%で、悩みごとについての相談の場面では16件中9件、56．3%である。一方、友人に対して「本を借りる」場面では38．5%（27件中5件）で、「悩みごとについての相談」の場面では43.8%（16件中7件）を示している。

この結果から、目上の相手や友人であっても相手に負担がかかる場面では使用頻度が高くなっていると言える。つまり、シンハラ語において最も丁寧な依頼表現であると言えよう。会話全体を見ても54.7%（72件中39件）と半数を超えている。

7. 結果と考察

7.1. 課題（i）日本語の依頼表現との類似点および相違点

シンハラ語の依頼表現にも授受表現や可能表現が使用していることは類似点として挙げられる。しかし、シンハラ語には「～てもらう」、「～ていただく」と「～てくれる」、「～てくださる」の異なり、「～てください」、「お～ください」、「お～願います」という表現方

法、「～てもらいたい」「～てほしい」という用法のような待遇表現上の区別、常体と敬体のような文体上の違い、はシンハラ語には見当たらない。一方、表現形式として存在するが、日常的な会話では使用されない表現、あるいは他の表現で言い換えられる表現が存在する。そして、シンハラ語では、授受補助動詞に可能の意味を表す「～puluwan（できる）」を共起させて、依頼を表明することが多い。

〈意志要求〉依頼表現、（例；「～てくれる」）あるいは、シンハラ語として見られない現象も「～puluwan（できる）」で対応することが多い。以下、後者の例である。

(8) 推薦状をお願いする時

推薦状　　をお願いします。

Charita sahatikayak　liyala　**de**　**nna**　**puluwan**　**da**

推薦状　書く - PP　あげる／くれる - INF　できる　Q

（推薦状を書いてくれる／あげることができますか - 直訳）

（筆者による作例）

このように可能表現の多用は日本語との相違点である。

次に、ロールプレイでの表現選択については以下のことが明らかになった（表 8）。日本語とは異なり、シンハラ語では「～puluwan（できる）」という可能の意味を表す表現は依頼表現として数多く使用されている。目上の相手に対して使用頻度が高くなっており、最も丁寧な依頼表現と言えよう。

(9) 教師との会話-本を借りる依頼場面

D01：sir,　ma　ta,　Martin Wickramasinhe　ge "sahitya kalava"**pota**　**hoya**　**ga**

先生　私　に　Martin Wickramasinhe　の "sahitya kalava" 本　探して　もらう

-nna　**puluwan**　**da**　**sir.**

-INF　できる　Q　先生

（先生、私に Martin Wickramasinhe の "sahitya kalava" 本を探してもらうことができますか、先生 - 直訳）

そして、依頼表現には授受補助動詞が使用される（山岡他 2010:166、岡本 1986:49、大倉 2000:229）ことは日本語との類似点であるが、実際の会話では、授受表現が使用されていない発話が多いことも明らかとなった。授受表現が使用されている発話の中で、授受補助動詞「もらう」の使用頻度が高くなっている。特に、教員に依頼する場面では使用率が高い。そして、依頼表現として使用されているのは〈命令〉系依頼表現、〈可能要求〉依頼表現に限られており、〈願望表出〉系依頼表現などの使用が見られなかった。上記表現以外にも、言いさし、動詞の使い分け、感嘆詞や終助詞の使用など語彙的特徴も依頼表現と密接に関係しているということが明らかになった。つまり、友達に依頼をするとき親しさを表明するために感嘆詞や終助詞を使用されている傾向がみられた。今後詳しく検討する必要がある。

7.2. 課題（iii）シンハラ人日本語学習者が産出する依頼会話における表現の特徴を明らかにすること。

学習者の依頼表現については、シンハラ語でよく使用されている「～Puluwan（できる）」が、そのまま日本語でも発話される傾向が見られた。

〈可能要求〉依頼表現は以下のように「もらう」と「できる」系に分ける。

表 5　〈可能要求〉系依頼表現の出現頻度

表現	合計	%	1年生		2年生		3年生	
			本	悩み	本	悩み	本	悩み
〈もらう〉系	2	11.1%	1	0	1	0	0	0
〈できる〉系	16	88.9%	1	2	3	4	2	4
合計	18	100.0%	2	2	4	4	2	4

表5を見ると「できる」系の表現使用が明らかに多い（18件の中16件）。また、学年が上がるにつれても使用傾向が見られる。従って、可能要求表現にも母語の影響があると言える。

表 6　〈可能要求〉依頼表現 - 例

学年	表現
1年	・今できますか ・ちょっと教えることができますか
2年	・いつできますか ・ちょっと話すことができますか。 ・文法の授業を教えることできる？ ・ちょっと教えてできますか
3年	・それを説明できますか ・それを直すことができる ・ 今ちょっと説明することができない？ ・説明できますか

8. 今後の課題

今後、調査の精度を上げるために、実験協力者の数を増やし、男性・女性の比率を均等にしながら、大学生に限らず、幅広い年齢の協力者を仰いでいきたい。日本語母語話者のデータと比較し、日本語とシンハラ語の依頼行為についてより多様な観点から検討したい。また、依頼表現の分類については、本調査では日本語の分類を参考にしたが、シンハラ語の依頼表現の分け方についても考えて行きたい。さらに、語彙、構文、ストラテジーの相違の調査、対照研究を通した依頼行為の新たな解釈の仕方の提案など、深い領域まで研究を進めていきたい。

注

(1) 可能文は、シンハラ語の可能文は基本文の述語動詞を不定詞に変え、これに助動詞のpuluwan（できる）やbee（できない）を後置するとともに、主語表示を主格から写格に変化することにより作ることができる（宮岸 2007:31)。

(2) ロールプレイの場面を設定するために、スリランカ・ケラニヤ大学現代言語学科の日本語学習者全員（112名）を対象にニーズ調査を行った。

(3) スリランカ・ケラニヤ大学類生27名－1年生8名、2年生12名、3年生7名の計27名（日本学習・滞在経験なし）である。

(4) 山岡（2008）の依頼表現分類－遂行系、命令系、要求系（意思、可能、許可）、願望表出系、情意表出系

(5) 李（2006）の15種の機能的分析単位－注目要求（名詞、感動詞、挨拶）、都合伺い、話題提示、確認、状況説明、行為要求、懇願、念押し、負担軽減（恐縮、条件、限定、確認）、その他。

(6) スリランカ・ケラニヤ大学現代言語学科日本語学習者－1、3年生各15名、2年生14名の計44名（日本滞在経験なし）で、日本語学歴2～4年である。

(7) 山岡（2008）では、発話機能とは「話者がある発話行為を行う際に、その発話が聴者に対して果たす 対人的機能を概念化したもの」と定義されている。

主要参考文献

稲木昭子・堀田知子・沖田知子（2004）『新　英語・エイゴ・英語学』松柏社

蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1993)「依頼表現方略の分析と記述－待遇表現教育への応用に向けて」早稲田大学日本語研究教育センター紀要 5号 pp. 52－69 早稲田大学

黒滝真理子（2000)「依頼表現にみられる母語から英語への語用論的転移現象」言語文化と日本語教育 21 pp. 128-133 お茶の水女子大学日本言語文化学研究会

西光義弘（1993)「依頼表現の日英語対照」英語青年 139（5）pp. 234-236 研究者出版

山岡政紀（1989)「授受補助動詞と依頼行為」『文芸言語研究』17 pp. 19 - 33 筑波大学文芸・言語学系

山岡政紀（2008)『発話機能論』くろしお出版

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010)『コミュニケーションと配慮表現　日本語用論入門』明治書院

李宜真（2006)「日中の依頼表現の言語行動の対照研究－ポライトネスの観点から」筑波大学大学院修士論文

和田由里恵・堀江薫・北原良夫・坂本啓（2008)「日本語学習者の依頼におけるポライトネスストラテジー－日本語学習者の母語と日本語との比較」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』3 pp. 293－300 東北大学高等教育開発推進センター

Blum-Kulka ,S.J.House & G.Kasper (eds.) (1989) *Cross cultural Pragmatics : Request and Apologies*, Ablex Publishing Corporation

Chandrasena premawardhena,N. (2007) "How diplomatic can a language be? The unwritten rules in a language: an analysis of Spoken Sinhala", *Dialogue and culture*, pp.213-225, J. Benjamins Pub. Co.

表７　依頼表現の分類

依頼表現の形式	本				悩み			
	教員④		友人④'		教員⑧		友人⑧'	
1.〈遂行〉系	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2.〈命令〉系	0	0.0%	2	15.4%	0	0.0%	5	31.3%
3.〈要求〉系								
Ⅰ　意志	2	7.4%	2	15.4%	0	0.0%	3	18.6%
Ⅱ　可能	16	59.3%	3	23.1%	9	56.2%	4	25.0%
Ⅲ　許可	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅳ　存在確認	6	22.2%	6	46.1%	2	12.5%	0	0.0%
Ⅴ　勧誘	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%
4. 願望表出	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. 情意表出	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6. 省略文	3	11.1%	0	0.0%	4	25.0%	0	0.0%
7. その他	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	12.5%
件数	27	100.0%	13	100.0%	16	100.0%	16	100.0%

表８　場面及び相手による表現形式の出現頻度－シンハラ人母語話者

依頼表現の形式	本				悩み			
	教員④		友人④'		教員⑧		友人⑧'	
1.〈遂行〉系	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2.〈命令〉系	0	0.0%	2	15.4%	0	0.0%	5	31.3%
3.〈要求〉系								
Ⅰ　意志	2	7.4%	2	15.4%	0	0.0%	3	18.6%
Ⅱ　可能	16	59.3%	3	23.1%	9	56.2%	4	25.0%
Ⅲ　許可	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Ⅳ　存在確認	6	22.2%	6	46.1%	2	12.5%	0	0.0%
Ⅴ　勧誘	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%
4. 願望表出	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. 情意表出	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6. 省略文	3	11.1%	0	0.0%	4	25.0%	0	0.0%
7. その他	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	12.5%
件数	27	100.0%	13	100.0%	16	100.0%	16	100.0%

（デヒピティヤ　スランジ　ディルーシャ、筑波大学大学院生、sd.dehipitiya@gmail.com）